

第3章 金融

利用状況(1)

認知度は高いが利用率は低い

資料3-3-2 主な銀行のインターネット対応とその内容

インターネット銀行	さくら銀行	富士銀行	東京三菱銀行	あさひ銀行	三和銀行	住友銀行	大和銀行	東海銀行	シティバンク
サービス名	さくらのブラウザ バンキングサービス	富士サイバー バンク	インターネット バンキング	あさひインター ネットバンキング	三和インターネット バンキング	WEBダイレクト	ダイワ・インターネット バンキングサービス	インターアナー サービス	シティダイレクト
開始時期	1998年10月	1998年10月	1997年8月(試行)	1998年7月	1998年2月	1997年1月	1999年2月	1998年1月	1998年12月
利用料金	契約料・手数料はなし	ブラウザ方式:残高照 会等は無料、振込・振 替は利用した月のみ105 円/月。専用ソフト方 式:1260円/年	無料(試行)	1999年9月まで無料	300円/月(テレホン バンキング含む)	1500円/年(税別)	315円/月	無料	無料
振込み	○	○	○	○	○	○	○	×	×
(上記サービス時間)	サービス中断時間は毎日2:00 ~3:00、土曜日21:00~翌7:00	0:00~15:00	24時間	24時間(日4:00~ 11:00は停止)	24時間(月1回のメン テナンス時以外無休)	24時間	7:00~27:00		
当日振込み扱い時間	○		○	○	○	○	○	×	×
当日振込み扱い時間	予約扱いのみ (7営業先まで利用可)		予約のみ	平日12時まで	14:30までは当日処 理。以降は翌日扱い	他行宛7:00~15:00、当行 本支店宛7:00~16:00	×	×	×
振込み手数料1万円未満(他行宛)	105円(262円)	105円(315円)	105円(262円)	105円(315円)	105円(315円)	105円(315円)	105円(262円)	×	×
振込み手数料1~3万円(他行宛)	105円(367円)	105円(420円)	105円(315円)	105円(420円)	105円(315円)	105円(420円)	105円(315円)	×	×
払込み手数料3万円以上(他行宛)	262円(515円)	105円(577円)	210円(472円)	210円(630円)	315円(630円)	315円(630円)	210円(472円)	×	×
残高照会の可能な時間帯	土日祝を除く毎日 8:45~19:00	日曜日0:00~7:00、同 19:00~月7:00まで24時間	24時間	24時間(日4:00~ 11:00は停止)	24時間	24時間	平日8:45~21:00	24時間	24時間
取引明細確認の可能な時間帯	土日祝を除く毎日 8:45~19:00	日曜日0:00~7:00、同 19:00~月7:00まで24時間	24時間	24時間(日4:00~ 11:00は停止)	24時間(最長2ヶ 月分照会可能)	24時間	平日8:45~21:00	24時間	24時間
その他提供サービス	各種商品案内、資料請求、ロー ンシュミレーション、ローン販 申し込み、住所変更手続き	仮想商店街でのショ ッピング即時決済			振替、取引結果確 認。当行本支店間 での家族口座への 振込み手数料無料	マイクロソフト「 Money」への入出 金明細のダウン ロードサービス	普通、当座に加え 貯蓄預金も利用	振込は公衆回線で 提供中	13通貨の外貨預金、定期預金、 外貨預金プランニングツール、 外貨専用インベストメントニュ ース、レート動向など
クライアント側の専用ソフトの有無	無	有/無(いずれでもOK)	有	有	有	無	可能	無	無
上記ソフトの対応OS	無	有: Windows95	Windows	Windows95,98、NT4.0	Windows95、98、NT4.0	無	有	無	無
クライアント環境	Netscape Navigator3.0 以上、Internet Explorer3.02以上	有: NetscapeNavigator 3.01以上、Internet Explorer 3.02以上、無: Netscape Navigator 4.04以上Internet Explorer4.01以上	ICカードリーダー、 ICカード、WWWブ ラウザ	Netscape Navigator3.0 以上、Internet Explorer3.02以上	Netscape Navigator2.02以上	Netscape Navigator4.0 以上、またはInternet Explorer4.01以上	Windows95 Netscape Navigator3.0以上、 Internet Explorer3.02以上	Netscape Navigator2.0 、Internet Explorer3.0 以上	Netscape Navigator 4.03以上、Internet Explorer4.01以上
使用システム	SSL	有: RSA、 無: SSL	公開鍵+SSL、ICカード を用いたオンライン認証	SECE	SECE	128bit版SSL	振込み: SECE、 残高照会: SSL	SSL (ANSER-WEB)	128bitSSL
口座数(1999年4月現在)	15292件	約10000	非公開	約20000	約20000	約30000	非公開	非公開	37500
預かり資産合計額	非公開	非公開	非公開	非公開	非公開	非公開	非公開	非公開	非公開
備考	iモードでも利用可		試行中。1999年秋本格稼働予定。				iモードから残高照会、取引明細詳細可能		1999年9月に振込機 能追加予定。投資信 託、お預かり残高照 会機能追加予定

出所 (株)インプレス「インターネットマガジン」1998年9月号「インターネットバンキングの実力」の資料を一部変更して作成

解説

況はインターネットがまだ「経営的な観点で重視すべきチャネル」になっているとは言い難い。

金融サービスの認知度

インターネット上の金融サービスを日本の消費者がどう捉えているかについて調査したレポートが2つある。1つは98年11月に電通リサーチが行った「金融オンラインサービスの利用動向調査」、もう1つは98年12月に朝日広告社が実施した「インターネットバンキングに関する意識調査」である。いずれもインターネットユーザーを母集団として行われたものだ。

朝日広告社の調査によるとサービスの認知

度は非常に高く、保険45.3%、証券60.7%、銀行77.1%となっている(資料3-3-3)。しかしながら実際に利用しているユーザーは、上の口座数にも表れているようにまだまだ少なく、保険6.6%、証券7.6%、銀行6.4%となっている(資料3-3-4)。前掲の口座数/総ユーザー数比率と比べて数値が大きいのは、調査対象に休眠インターネットユーザーが含まれていないためだろう。いずれにしても日本ではかなり少数派ということになる。

しかしながらこれが拡大していく兆しは十分にある。電通の調査では金融情報の入手経路としてウェブを活用する者が46.9%に上って

り、新聞(85.4%)、テレビ(69.8%)などと比べても遜色がない。少なくとも一般雑誌(29.9%)、金融専門雑誌(13.4%)を上回っている(資料3-3-5)。このへんは、米国で取引ベースの利用が急拡大したのは98年だったが、それに先行して金融情報を提供するウェブサイトの充実が進み、その利用率も上がっていった状況を考え合わせると興味深い。

金融取引、特に証券系の取引には「学習」が不可欠であり、インターネット上ではこれが「ウェブを通じた情報の入手」という形をとる。同調査では金融機関のウェブサイトをブックマークしている割合が全体の41.0%(資料3-3-6)、金融

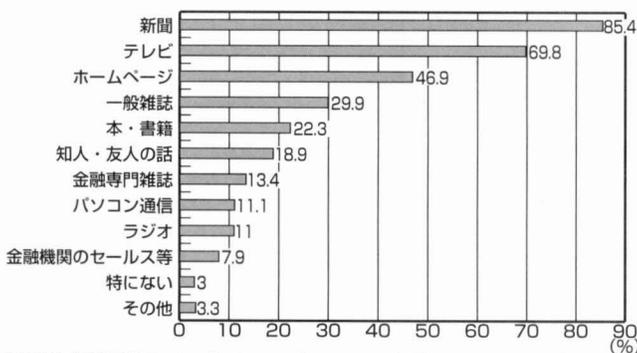
セキュリティ問題の解決が普及の鍵に

資料3-3-3 インターネット上での金融サービスの認知度 (N=6,007) 資料3-3-4 インターネット上での金融サービスの利用経験 (N=6,007)

	YES	NO
保険会社のサービス	45.3%	54.7%
証券会社のサービス	60.7%	39.3%
銀行のサービス	77.1%	22.9%

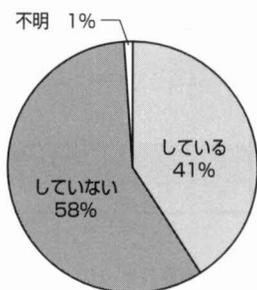
出所 株式会社朝日広告社「インターネット・ユーザーを対象としたインターネット・バンキングに関する意識調査」の資料を元に作成

資料3-3-5 金融情報源としてのインターネットの活用状況 (N=1,177)



出所 株式会社電通「インターネットユーザーにおける金融オンラインサービスの利用動向」の資料を元に作成

資料3-3-6 金融機関のホームページのブックマーク状況 (N=1,177)

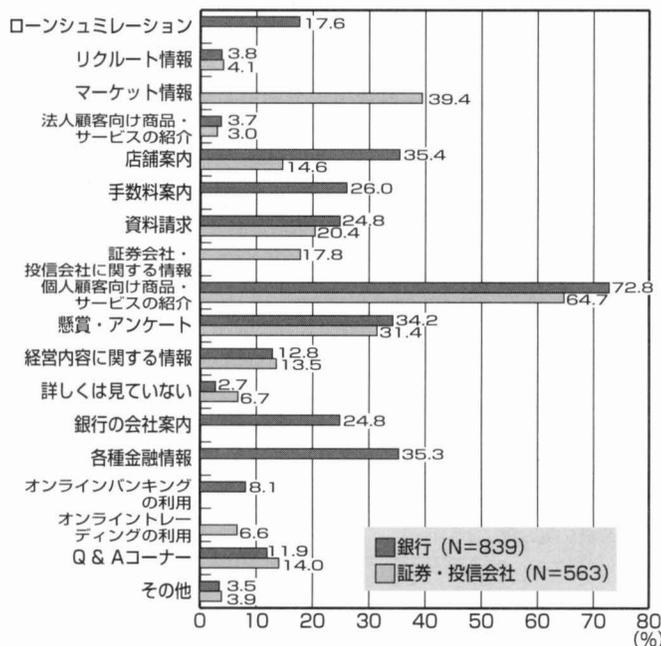


出所 株式会社電通「インターネットユーザーにおける金融オンラインサービスの利用動向」の資料を元に作成

	YES	NO
保険会社のサービス	6.6%	93.4%
証券会社のサービス	7.6%	92.4%
銀行のサービス	6.4%	93.6%

出所 株式会社朝日広告社「インターネット・ユーザーを対象としたインターネット・バンキングに関する意識調査」の資料を元に作成

資料3-3-7 金融機関のホームページ利用状況



出所 株式会社電通「インターネットユーザーにおける金融オンラインサービスの利用動向」の資料を元に作成

解説

機関サイトをすでに利用している者のなかで商品・サービス情報をチェックしている者が72.8% (バンキング)、64.7% (証券) という興味深い数値も得られる (資料3-3-7)。

ウェブで「学習」した者が取引段階でどのチャネルを選択するかと言えば、多くはインターネットということになろう。インターネットチャネルの利便性は、現在でも十分に認識されている (P.102資料3-3-8)。

金融サービス利用時の弊害

ただし、セキュリティの問題が、ユーザーに必要以上の警戒感を持たせているということも否

定できない。朝日広告社の調査によれば、インターネットバンキングを利用しない理由として、「個人情報の安全性が心配」を挙げる者がもっとも多く(50.3%)、次いで「利用方法がよくわからない」(40.1%)、「サービス内容がよくわからない」(34.5%)となっている (P.102資料3-3-9)。インターネット展開を行う金融機関は今後も継続的に「セキュリティ面は安心だ」という広報宣伝を行う必要がある。

そのセキュリティの実装手段だが、米国では銀行、証券ともにほぼ100%がSSLである。言うまでもなくSSLの場合はユーザー側で事前準備の負担がないに等しい。これに対して日本では

はSECEを採用している所も多い (P.99資料3-3-1、資料3-3-2)。SECEでは郵送によるウォレットの受取とインストール、鍵生成、証明書取得といったプロセスが必要になり、リテラシーの低いユーザーでは対応できないとの指摘も聞かれる。もちろん、SECEを使えば認証の精度は上がるわけだが、利用規模の拡大をとるか、セキュリティをとるかというジレンマである。

次のページへ



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp